

民生福祉常任委員会記録

令和6年3月18日

【開催日】 令和6年3月18日（月）

【開催場所】 第2委員会室

【開会・散会時間】 午前9時～午前9時18分

【出席委員】

委員長	奥良秀	副委員長	吉永美子
委員	中岡英二	委員	古豊和恵
委員	前田浩司	委員	山田伸幸

【欠席委員】 なし

【委員外出席議員等】

副議長	中村博行		
-----	------	--	--

【執行部出席者】 なし

【事務局出席者】

局長	河口修司	議事係主任	岡田靖仁
----	------	-------	------

【審査内容】

- 1 請願第1号 「加齢性難聴者の補聴器購入に公費助成制度の創設を求める」
請願
- 2 閉会中の継続調査事項

午前9時 開会

奥良秀委員長 おはようございます。これより民生福祉常任委員会を開会いたします。本日の審査内容は、お手元にあるとおり進めさせていただきますので、御協力をお願いいたします。まず、審査内容1番、請願第1号「加齢性難聴者の補聴器購入に公費助成制度の創設を求める」請願につきまして審査を行います。これについては先日から委員会を開きまして、参考人に請願の趣旨を説明いただき、また、その後に執行部に質疑を行いました。本日、それらを踏まえて自由討議を行いたいと思います。自由討議につきましては皆さんもうお分かりだと思いますので、自由闊達な御意見を求めたいと思います。趣旨から外れないように討議していき

たいと思いますので、御協力をよろしく申し上げます。それでは何かあるでしょうか。

山田伸幸委員 この間、この問題を考えさせられることが何回かありました。

これはある自治会の会合だったんですけど、高齢者の方が役員をぜひ辞退させてほしいと申し出られたんです。高齢化に伴って会議に出ても聞こえないから、思うように意見も言えないし、自治会の皆さんに迷惑がかかるからという理由だったんです。そういった方に、「補聴器はどうされていますか」と言ったら、「まだつけたことがない」と言われたんです。また、「家にほかの家族がいるんで、自分一人だけテレビの音を大きく出しておけば何とか済む」とも言っておられました。やはりそういった人が安心して補聴器をつけられるような、そういった人を応援するような制度があればいいなと感じました。もう一つは、これは道端で出会った方なんですけど、いつもは私の顔を見たら、必ず元気よく声をかけられていたんですけど、そのときはなぜか声をかけられなかったんです。私のほうから声をかけても無視されたんです。これはおかしいと思って家に帰って話を聞いたら、会ったことは分かっていたけど、「もう何を言っているのか聞こえなくなってしまったから、失礼に当たるから黙っとったんです」と言われました。やはりお年寄りといいますが、高齢になられた皆さんが、日常生活の中で自分の社会性を閉ざそうとしているなと感じたんです。ですから、そういった人が安心して社会生活を続けるためにも補聴器は欠かすことができない。また、安いものでなくて、やはりいいものが購入できないと、それをつけることによって逆に不便になってしまうことがあってはならないと思います。市にこういった助成制度があれば、そういった方が安心して社会生活を送れるんだと感じた次第です。

中岡英二委員 先日来、請願者のお話を聞き、執行部の話を聞いた中で、高齢化が進む本市において、加齢性難聴により日常生活に不便を来す高齢者がいること、また、請願者の中にもありました言葉ですが、能力ある高

齢者が難聴により社会で働けなくなることは、本市にとって大きな損失だと思えます。また、執行部の答弁を聞き、2年前からこの制度に対する取組があまり進んでいないような気がしました。この制度を前に進めていくには、積極的に取り組んでいくことが必要ではないかと思えます。委員会としても、その取組についてしっかりと関わっていくことが大事だと思えます。

前田浩司委員 請願者から貴重な意見を頂いて、委員会としても審査してまいりました。その中で難聴が認知症の因子であるとあり、今後、高齢者の手助けになるような何か手だてが必要ではないかと感じております。その辺も踏まえて高齢者への周知や啓発は必要ということで、執行部にもその辺を伺いました。執行部の方からは、そういう機会をこれまでも設けて対応は取ってきたと聞きました。しかし、高齢の方は、市の窓口にご相談に行かれることと併せて病院に行かれて相談することも大切なことではないかと認識しております。ただし、市の何らかの体制づくりもやはり必要になってくると感じた次第です。

奥良秀委員長 前田委員、公費助成制度についてと云々と言われたんですが、助成制度についてはどのように思われているのでしょうか。

前田浩司委員 助成制度につきましては、相談に来られる高齢者の方々への対応を通して、必要に応じて前に進めていかないといけないと感じております。

古豊和恵委員 加齢性難聴については、どんどん高齢化が進んでいる中で、誰もが通る道であろうと思えます。もちろん私たちもそうだと思います。だから、市においてそのための助成制度は必ず必要だと思っております。ので、賛成します。

奥良秀委員長 今は自由討議なので賛成等の御意思は示されなくてもいいと思

います。

吉永美子副委員長 先日来、加齢性難聴を抱えた方々に対して、市はどのように寄り添えばいいのかを感じながら過ごしてまいりました。私がこのたび強く思ったのは、先ほど前田委員が言われましたように、厚生労働省も見解を出しておりますが、難聴によって認知症が進むということは否めないわけです。ですので、やはり難聴になられた方は、補聴器をつけたほうがよい場合にはつけるという形で、少しでも認知症の状態にならないように、また、症状が進まないようにしていくことは必要だと思っております。そういう意味では、補聴器をつけることがどんなに大事かということ、これまでつけておられない方々に対してもお知らせしていくことが大事だと考えます。そういう点では、先日、請願者の代表であられる石井参考人に対して、こういう助成制度が始まることによって、補聴器をつけたほうが良いという流れができることも期待されているかという趣旨のことを聞いたと思います。そのときに、そう思っていますという回答があり、私の思いと同じ部分があるなと思いました。それから執行部の話を聞いてさらに思ったのは、何でもそうですけど、障害者手帳の取得までは行かない、本当にぎりぎりの方々に対しての手当てが薄いのではないかということです。ほかの障害がある方に対しても思っておりましたので、補聴器の助成制度を市がどのように行うか、その手法についてはもう託すわけですが、特にやはり中等度難聴、要は障害者手帳を取得できないが、本当に難聴なんだという方々をどう応援していくか、その手法に今回の助成制度が入ることが一番願うところであります。それを願いながら、このたびの請願が、執行部にいま一度助成制度について考えていただく機会になればと強く思った次第です。

奥良秀委員長 自由討議を進めている中で、前向きな御意見が多いと感じますが、各委員の意見を聞いて、その他意見はありますか。

山田伸幸委員 前回の請願のときには、議会として趣旨採択としたんです。し

かし、執行部は議会が趣旨採択したことを知っておりながら一歩も動いてなかったというのが率直な感想です。この間の話を聞いていてそのように感じましたので、やはり議会が動かなくては、やはり執行部も動きようがないんだと感じています。

奥良秀委員長 前回の趣旨採択よりも一歩前に進めるためには、前向きな方向で行きたいという御意見ですね。その他、委員の意見を求めます。（「なし」と呼ぶ者あり）いろいろな意見が出ましたので、これで自由討議を終わろうと思いますがよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）では、自由討議を終わります。それでは暫時休憩いたします。

午前9時13分 休憩

午前9時15分 再開

奥良秀委員長 暫時休憩を解きまして委員会を再開いたします。請願第1号「加齢性難聴者の補聴器購入に公費助成制度の創設を求める」請願につきまして、討論を行います。討論はありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）討論なしと認めます。これより請願第1号加齢性難聴者の補聴器購入の公費助成制度の創設を求める請願につきまして採決いたします。本件に賛成の委員の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

奥良秀委員長 全員賛成により本件は採択すべきものと決しました。暫時休憩いたします。

午前9時16分 休憩

午前9時17分 再開

奥良秀委員長 休憩を解きまして、委員会を再開いたします。続きまして審査内容2、閉会中の継続審査事項ということで、お手元にあるとおりで進めたいと思いますがよろしいでしょうか。（「はい」と呼ぶ者あり）このままでいいということで、このまま進めさせていただきます。以上をもちまして、民生福祉常任委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前9時18分 散会

令和6年（2024年）3月18日

民生福祉常任委員長 奥 良 秀